（別紙様式）　　（Ａ３判横）

平成３１年度　学校自己評価システムシート（県立小川高等学校 定時制の課程）

目指す学校像	基礎学力を向上させ、豊かな心と自主的精神を育み、生きる力を伸ばす学校

重点目標	
	１　分かる授業に向けた授業改善と個に応じた学習指導により、基礎学力の向上を図る。 ２　基本的生活習慣の確立と個に応じた生徒指導・進路指導により、自立した自己の実現を図る。 ３　開かれた学校として地域と連携し、学校行事と体験学習の充実により、豊かな心を育む。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学校自己評価					年度目標			年度評価（　月　日　現在）			学校関係者評価
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日　平成　年　月　日
1	【現状】 複雑な家庭環境等により、今まで学校生活に馴染めなかった生徒が多い。また特別な支援が必要な生徒、他校から転編入学している生徒も多く、学習意欲も決して高くない。 【課題】 生徒が自ら自分の課題を把握して取り組むことができないので、生徒個々の状況に応じた支援が必要である。	基礎学力の定着と、個々の状況に応じた学び方を確立させる。	①総合的な探究の時間を通して、基礎学力を定着させるための演習を実施する。 ②分かる授業を実施するために、授業公開を行い、教科指導力の向上や、経験年数の長い教師から経験年数の短い教師へ指導技術を継承する機会とする。 ③始業前や長期休業中の学習指導や学期末の補習のような、個に応じた学習指導により基礎学力の向上を図る。	①4 年間を通して「国語・計算・作文」の計画的な実施と自身の振り返りの実施。 ②授業公開の実施と、職員研修会の実施。 成績不振者の減少。 ③補習等の実施状況。				学校関係者からの意見・要望・評価等
2	【現状】 多様な課題を抱えている生徒が多いが、学校では落ち着いた生活を送っている。 進路指導やｷｬﾘｱ教育を実施する上で、多様な問題を抱えている生徒が在籍している。 【課題】 進路実現のために一斉指導だけでなく、個別指導を実施する必要がある。 在学中の就労を伸ばすことが課題である。	生徒の課題の把握と組織的な対応をすることで基本的生活習慣を確立させる。	①時間やマナーを守ること徹底させる。 ②各種ｱﾝｹｰﾄによって把握した情報を教職員間で共有する。 ③SC・SSW、巡回支援員等の外部機関と連携することで、より適切な対応を実施する。 ④個々に応じた支援をするために深谷若者ｻﾎﾟｰﾄｽﾃｰｼｮﾝによる面談等を実施する。	①普段からの呼びかけや各式等での声掛け。 ②教職員間の情報共有。 ③外部機関の効果的な活用。または欠席・遅刻・早退の減少。講演の実施。 ④面談等を通して、生徒の状況を把握することができたか。				
		就労支援や個別面談を実施することで、個に応じた進路実現能力を育成する。	①個別相談や保護者面談の実施。SST・社会体験活動等を実施することで、多様な問題を抱える生徒に対応する。 ②支援教育の方法を取り入れた指導やﾊﾛｰﾜｰｸ、就労支援ｾﾝﾀｰ等と連携した取組を実施する。 ③進学・就職希望者に対する個別相談、進路ガイダンス等を活用させる。	①個に応じた指導の実施。 ②在学中の就労実績、就労訓練、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動の実施。 ③進路意欲の向上と、進路決定者数。				
3	【現状】 体験活動を積極的に取り入れ、参加した生徒は学校行事に前向きに取り組んでいる。生徒会希望者は減少傾向にある。 PTA 活動等を通じて保護者・地域との連携を図っている。 【課題】 生徒会を中心とした生徒が主体的に取り組むための体制づくりが必要である。 町の商工会等とも関わりを持つ。 ＰＴＡ活動や学校行事への保護者の参加を促進することで、学校の活動を理解してもらう。	行事に主体的に参加することで生徒の豊かな心を育む。	①花壇・菜園整備等の実施による体験活動の推進を図る。 ②生徒会を中心とした行事運営と自主的活動の実践やｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の向上を図るとともに、各行事ごとにｱﾝｹｰﾄを実施する。	①多くの種類の植物の栽培と生徒による自己管理。 ②生徒会行事への参加率の向上と自主的な運営の実施とｱﾝｹｰﾄ結果の分析。				
		PTA 活動の周知や学校の活動の情報発信をすることで保護者や中学生に本校を理解してもらう。	①PTA だよりの定期的な発行により定時制の取組や成果を PR する。 ②ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞを活用した情報発信を積極的に行う。 ③中学校や保護者へ、説明会や学校訪問を通して本校の活動を周知することで、学校の活動を理解してもらう。	①理事会等で意見を集約することで、内容を充実させる。 ②閲覧件数、日誌等の更新状況。 ③中学校への訪問回数や説明会への参加状況。町と連携できたか。				

（別紙様式）

（Ａ３判横）